



たんときッズあおき ことばの教室スタート

1月から療育プログラムに新たに「ことばの教室」という特別プログラムがスタートします。これは、普段から言葉が上手に出ない、話しづらい、聞き取りづらい、食べ物を上手に食べられない、飲み込めないなど、口や喉の動きに関連する悩みに対して、専門の言語聴覚士（ST）の方が療育トレーニングを実施してくれるものです。

以前から、要望、希望はあったのですが、やっと専門のSTの方の協力を得られることになり、スタートする事ができます。

※当面の間は、現在、たんときッズあおき の療育プログラムを利用している方に限定させていただきますが、今後、希望される方にも受けられるように順次拡大していく予定です。たんときッズあおき のことばの教室の利用を希望する場合、一定の条件がありますので、たんときッズあおき まで相談していただけたいと思います。

ただし、対象年齢は学齢期のお子さんに限らせていただきます。



コラム ～ 犬や猫はみんな発達障がい？ ～

みなさんは、猫はお好きですか？私の自宅には3匹の猫が同居しています。2匹は、保護猫をもらってきたのですが、3匹目は娘が昔、駐車場で親猫が何かのトラブルで落として行ってしまった生後3日ぐらいの猫を拾ってきて、結局、3匹の猫たちと暮らすことになりました。

もともと、猫は好きだったのと妻の家では昔から猫を飼っていたので、何の抵抗もなく暮らしていますが、昔から猫は「自分勝手」とか「気分屋」とか言われますよね。

ある研究者の方は、自閉スペクトラム症の特徴と猫の特徴はとても良く類似しているところがある。と仰っている方がいます。

特に猫は、最近言葉として使わなくなってきたのですがアスペルガー症候群という自閉スペクトラム症の中の分類によく似ていて、犬はADHD（注意欠如多動性障害）に似ていると言われています。簡単に表現すると、アスペルガー症候群は思ったことを取り組み、集団が苦手な自分ひとりで過ごしたい。ADHDは、色々なものが気になり注意が向いてしまい、色々忘れてしまうことがある。猫、犬のすべてがそうではないですが、比較的多いとされています。

そして、これは研究としてしっかり発表されているわけではないのですが、成人の発達障がいの方が猫を飼うと、不安がやわらいだり、ストレスの軽減効果があるそうです。

障がい分野の取り組みの中でも、アニマルセラピーという分野があり、気持ちを落ち着かせたり、様々な効果があるとされ、障がい分野だけではなく高齢者分野でも活用されているところが多いです。ちなみに、みなさんは 犬派ですか？猫派ですか？

裏面も読んでいただき、何かお子さんに不安や心配事などがありましたら、村の保健師や教育委員会、たんときッズあおきまで、ご相談いただければ対応いたします。

たんときッズあおき（NPO法人たん。）

TEL 0268-75-6789

青木村田沢3075-1

■開所時間 9:00-17:00

■定休日 土日祝日

NPO法人たん



あなたの知らない発達障がいの世界

2024.01

過去の偉人に「発達障がい？」の人が多いのはなぜ？

昔の有名な人物達を最近ネットで検索すると、多くの方に発達障がいがあったというような話が出てきます。

坂本龍馬、織田信長、レオナルド・ダ・ヴィンチ、トーマス・エジソン、アインシュタイン、モーツァルトなど他にも沢山の方が、そうではないか？と言われていました。

近年では、本田宗一郎さんをはじめ、長嶋茂雄、黒柳徹子、さかなクン、イチローなどもそうですよね。

では、なぜ発達障がいと言われていた方が、世の中の第一線で活躍しているのでしょうか？

そもそも、今名前を挙げたみなさんは、「発達障がい」ではなく「発達障がい」の傾向がある方という言い方がいいのかもしれませんが、以前、自閉スペクトラム症（以下 ASD）の特徴があっても生活に著しい困難がなければ「障がい」にならないというお話をしたことがあります。まさに彼らはその状況だったのではと思います。

でも、ASDの方たち全員が偉業を成し遂げるような方という訳では必ずしもありません。そんな中、彼らはどんな生き方をして今のようになったのでしょうか？

実は、本人たちが生活環境を整えるために頑張ったというよりは、どちらかという周りに彼らを認め支えてくれる人が居たというのが本当のところでは。

例えば、本田宗一郎さんは自動車メーカー ホンダ の創業者です。彼は、本当に天才と呼ばれる存在で、当時からグンを抜いたエンジニアでした。しかし、会社を経営していくにはエンジニアの能力だけではなく、他にも多くの能力が必要とされます。彼は、車やバイクを作ることに興味があり熱中していましたが、他のことにはまったく興味がありませんでした。それを一手に引き受け支えたのは、No2 と呼ばれた藤沢武夫さんという方でした。この方と知り合わなければ、今のホンダは無かったとも言われています。そして、さかなクンは、小さい頃から変わった子といじめられたり馬鹿にされたり、先生も勉強をしなくて魚の絵ばかり書いているとお母さんに注意してもらえるようお願いをしたそうです。しかし、お母さんは「うちの子はそれでいいんです」と困っているというより、むしろ、子どもの事を認めどんどん興味のある事を伸ばしてあげたそうです。

他の人たちにも必ず、周りが支えてくれる人に恵まれていました。当然、そのことばかりさせている訳ではなく、ちゃんと日常生活の最低限のマナーやルールを他の時間に教えたり、体験する時間を作ったりしていました。

本人の好きなことだけをするだけではなく、ちゃんと周りの人が無理のない中で彼らが生活しやすい環境を作り、生活に困らないように支えていたということですね。さかなクンの小さい頃から現在までが映画になっています。興味のある方はぜひ一度ご覧になってください。

「さかなのこ」主演：のん 現在は、PrimeVideo などの配信サービスでもご覧になる事ができるので、気になる方はぜひ一度。

だからと言って、冒頭にも書きましたが全員が「天才」と呼ばれたり、昨今では「芸術家素質がある」とされたりしていますが、そうではない方も少なくありません。ただ、周りが理解することで格段に生活しやすくなり、得意な事を活かしながら、生活を組み立てていく事には変わりはありません。

ただ、人により特徴が様々で、ASD だからと言って全員が同じ配慮で OK というわけにいかないところが、この障がいの難しいところでは。

とは言い、私達はこの青木村のような限られた資源の中で出来ることもそんなに多くはありませんが、本人ができるかぎりストレスを感じない生活を送っていくことは十分可能です。そんな状況が実現していくことで、改めて彼らも歩み寄ってくれる機会が訪れてきます。

私達も苦手なことは沢山あります。お互いの得意・不得意を理解しながら生活を一緒に送っていける環境が増えてくると嬉しいなと思っています。

